

いのちの言の葉2012

富山県教育委員会平成24年度いのちの教育総合支援事業

「育ちゆく体と私—楽しみな未来、だから大切な今—」

滑川市立東部小学校

平成24年11月30日実施

【いのちの先生】

西川陽子先生

・日本助産師会富山県支部



＜お話を聞いて思ったこと＞

わたしは、命のバトンという言葉を書き、最初は、命のバトンなんかあるわけがないと思ったけれど、命のバトンの話を聞いているうちに、だんだん言葉の意味が分かってきたと思いました。命のじゅぎょうが終わった時に、じゅぎょうを受けてよかったと思いました。理由は、これまでは、命なんてそんなにたいしたことがないと思っていたけれど、じゅぎょうが終わった時に、命を大切にしなければいけないんだなあと思ったからです。

＜体験して分かったこと・考えたこと＞

体験してまず分かったことは、おもりのあるふくろをもった時に、重かったなあと思い、今、赤ちゃんを産もうとしている人は、こんなに重たい感じがして苦労しているんだなあ、と思いました。赤ちゃんの人形も重いなあと思いました。

＜お話を聞いて思ったこと＞

わたしは、赤ちゃんを産むのはお母さんが大変だと思っていたけれど、今日のお話を聞いて、自分が大変なんだと思いました。また、お話を聞いていて、何百分の一のかくりつで生まれてくるということにびっくりしました。命って本当に大事で大切なものなんだと思いました。今まで育ててくれたお父さん、お母さんにかんじやしたいなと思いました。

＜体験して分かったこと・考えたこと＞

わたしは、赤ちゃんは小さいから軽そうに見えるけれど、だっこしてみると重かったので、命があるんだなと思いました。すごくかわいかったです。わたしは、最初、・(点)くらいだと言われていたので、すごくびっくりしました。赤ちゃんの人形でも重かったので、すごいなと思いました。おもりをかつぐのもすごく重かったので、にんぷさんは大変だなと思いました。